

CAP2018

おきなわ宇宙教室

～沖縄県の大学生による星空教室を通じた地域連携事業～

品川玲央（琉球大学理学部3年／天文サークル「スターダスト」部長）

1. はじめに

CAP2018で、「おきなわ宇宙教室」の事例をポスターで発表しました。

発表申し込みについては、締め切りの前日まで非常に迷いましたが、多くの人に背中を押され、応募しました。学会発表自体、人生初めての経験だったので、非常に不安でした。ですが同時に、世界の天文コミュニケーターと出会えることにワクワクしました。「おきなわ宇宙教室」一緒に取り組んだメンバーの一人の長嶺さん（理学部2年）を誘い、発表当日まで必死に準備しました。

2. 「おきなわ宇宙教室」について

「おきなわ宇宙教室」（以下、宇宙教室）とは、沖縄県の離島地域でこども向けに行う星空教室です。夕方から屋内で宇宙や天文、沖縄にまつわる星の話をした後、屋外で天体望遠鏡を用いて観望会を行いました。母体は天文サークル「スターダスト」の部員の一部です。2017年は、伊江島と久米島で開催し、その他依頼があった沖縄本島でも開催しました。

2.1 「地域共創型学生プロジェクト（ちゅらプロ）」について

「地域共創型学生プロジェクト（以下、ちゅらプロ）」は、琉大生が自ら「地域」に入り、地域の再生・活性化やそこの課題の発見・解決等に取り組むという、学内公募型の正課外プロジェクトです[1]。ちゅらプロは、平成25年度文部科学省補助事業「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」[2]において採択された「ちゅら島の未来を創る知の津梁」事業の一環として実施されたものです。

今回の宇宙教室は、このちゅらプロに応募して採択され、実施することができました。

2.2 地域課題について

沖縄県の特に離島地域は、光害が少なく、南天の星空が特徴的です。天文教育に関して、非常に有利な地域ですが、その地域の人々は、その特徴が日常的なものであるため、気付いていない人が多いです。

一方で、人口減少等の地域問題が存在し、その地域の人々は、地域に人を呼ぶために様々なアプローチをしています。ですが、地域のしがらみ等で、新たな行事等を行うことが困難だそうです。

そこで、私たちは地域の星空を活用した宇宙教室を開催することで、その地域問題解決に貢献できるのではないかと考えました。

2.3 宇宙教室の様子

10月に伊江島、11月に久米島で開催しました。この時期の沖縄の天気はくもりが多いため、双方あまり天気がよくありませんでした。

屋内では、mitakaやパワーポイントを使用し、宇宙の話や星空の見方、沖縄の星にまつわる民話を話しました。屋外では、木星と土星を実際の天体望遠鏡を用いて見てもらい、曇天時は、天体望遠鏡を実際にのぞいてみる体験をしてもらいました。

「たのしかった」「またやってほしい」「学校で友達に話すね」といった感想を多くいただきました。



図1 屋内での教室の様子（伊江島）



図2 屋外での教室の様子



図3 曇天時の屋外での様子（久米島）

3. CAP で発表してみて

自分たちが教室を開いたことで、それを通して、他の事例を見て考えることができました。ポスター発表では、手書きのポップをポスターの周りに貼ったことで注目を集め、たくさんの方々に見て覚えていただき、意見を頂きました。SNSにも複数アップされていて、嬉しかったです。

共同研究や新たなプロジェクトのお誘いもあり、多くの収穫が得られました。

発表以外でも、日本人だけでなく様々な国の人と交流しました。今まで出会ったことがないような国の友人ができました。

英語が拙いこともあり、伝えたいことを伝えることができなかったこともありました。次はこの悔しい思いをしないように、レベルアップしたいです。



図4 会場の福岡市科学館前で、友人たちと

4. 最後に

平成 30 年度も新入生を加えたメンバーで「ちゅらプロ」に応募し、離島地域に宇宙教室をしに行く予定です。

学生それぞれ、地域に対しての問題意識は違います。宇宙教室を開催することで、地域のこどもたちだけでなく、学生も学び、成長できる場作りをしていきます。

CAP で発表したことは、筆者にとって大変貴重な経験となりました。後輩にも引き継いでいきたいです。

参考 URL

- [1] 琉大コミュニティキャンパス
<http://ryudaicoc.jim.u-ryukyu.ac.jp/>
- [2] 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/coc/



品川 玲央（左）、
発表者の一人、長嶺 実来（右）